

第 50 回 日本看護学会-看護教育-学術集会

紀の国から未来に翔けよう看護の心
 ～人生 100 年時代に向かって看護教育を創造しよう～



第 50 回 日本看護学会-看護教育-学術集会を終えて

学術集会長 古川 紀子

第 50 回 日本看護学会-看護教育-学術集会は 8 月 8 日、9 日の 2 日間、「紀の国から未来に翔けよう看護の心 ～人生 100 年時代に向かって看護教育を創造しよう～」をメインテーマに和歌山県民文化会館で開催しました。

猛暑の中、両日で全国から延べ約 3,000 名の皆様の参加があり盛会のうちに終了することができました。看護実践に根ざした口演発表 105 題、示設発表 100 題があり活発な意見交換がなされました。参加者の方からは、親切で丁寧な対応で大変気持ちよく参加できたとのことのお言葉をいただきました。

本学会の準備委員、協力員の皆様はじめ全国からご参加いただきました皆様に深く感謝いたします。



第 50 回の記念
 コングレスバック

開会式



古川学術集会長と
 福井学会長の挨拶
 で 2 日間の学会が
 始まりました。



仁坂和歌山県知事からは、
 Nursing now のちらしを持って、
 ご挨拶をいただきました。



第 1 会場では、福井会長の記念講演終了後に、Nursing now のちらしを持って、全員で写真撮影。

最前列中央では、仁坂県知事・古川会長も一緒に。





【基調講演】
坂本すが先生の講演では、感動して、涙ぐむ方も。



【教育講演】
看護にも教育にも相手を理解すること。そして、相手の特性に合った支援をすることが大切。



【特別講演 1】
熊川智子先生の講演で、パンダも人も日頃から変化を見てとることが大切だと。



【シンポジウム】
それぞれの立場から地域で生活する人々を支える人材をどのように育てるかをディスカッションしました。その中でも多職種の連携は大切ということが言われていました。



口演発表で質問中



示説発表の様子

学会に際して準備委員会を2018年5月に立ち上げ、毎月委員会を開催し会議を重ねてきました。本学会は第50回の学会であること、また、平成から新元号の年での開催であることから「節目」の学会であると考えました。そこで、本学会の目指すことは『看護の基盤となる普遍的な「心」を継続し、一方で、次世代に向かって深化する看護を「創造」という2つの視点で討議し、双方が融合した発展的な新しい知見を得る場となる』としました。このことからメインテーマは「紀の国から未来に翔けよう看護の心～人生100年時代に向かって看護教育を創造しよう～」と決定しました。プログラムの内容は超高齢多死社会を見据えた看護職の役割と能力の向上を視点に「政策」、「教育」、「実践」の分野で講演をしていただき、また「地域包括ケアシステムの構築」を焦点に、人材育成についてシンポジウムを企画しました。さらに、和歌山県の看護職が一丸となって心をこめたおもてなしをして、参加者の皆様に「来てよかった」と思ってもらえる学会にしようという思いで取り組みました。お蔭をもちまして一般演題は205題いただくことができました。



閉会式で挨拶

当日は猛暑ではありましたが、延べ約3,000人の参加者をお迎えすることができ、滞りなくプログラムを終えることができ安堵しました。実際に学会を開始して、会場の集客数と参加者の数が読み取れず、廊下で発表内容を聞いていただいた方もあり、参加者の皆様にご迷惑、ご不便をおかけしたことをお詫びいたします。

このように不備もありましたが、学会を無事に終了することができましたのは協力員の皆様のおかげです。早朝から遅くまで休む間もなく一日中動いていただき、気持ちよく学会の運営に携わっていただいた協力員の皆様のお力があってこそその学会でした。

参加者の皆様から「いい学会でした」「来てよかった」という声を頂戴しております。

協力員の皆様、また、学会に参加していただいた皆様、運営に携わっていただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

学術集会準備委員長

和歌山県立医科大学保健看護学部 藤本由美子